

京都精華大学 教育後援会 2022年度 第1回役員会 議事録

開催日時：2022年5月21日（土）11時～12時10分

開催場所：オンライン

出席役員：

（会長）小村 哲也、（副会長）寺田 勝一、（会計）井上 孝晴、（監事）塩路 有紀、（以下、学部幹事）夏目 友加、佐々木 潤子、伊藤 健次郎、溝井 浩、篠崎 聡、久保園 順子

本学参加者：

（学長・教育後援会顧問）澤田 昌人、（副学長）吉岡 恵美子、（副学長）蘆田 裕史、（教務部長）斎藤 光、（学生部長）三河 かおり、（教学グループ長）大羽 勇憲、（学生グループ長）出口 尚宏、（経営企画グループ長）舟津 潤

記録：（経営企画グループ）若林 麻由佳

議事事項

1. 京都精華大学 概要・2022年度概況
2. 2022年度教育後援会について
3. 2021年度事業報告および決算
4. 2022年度事業計画および予算

今回の決定事項

- ・2022年度の教育後援会の主な活動内容、役員について承認された。
- ・2021年度の事業報告および決算について、事業報告、決算、寄付事業実績報告が承認された。
- ・2022年度の事業計画および予算について、事業計画案、予算案、寄付事業案が承認された。

議事事項

1. 京都精華大学 概要・2022年度概況

事務局から、(1)建学の精神、(2)学校法人の沿革、設置する大学・学部・学科等、(3)教職員数、組織、学生数について説明があった。

2. 2022年度教育後援会について

事務局から、(1)教育後援会の諸活動、(2)教育後援会会則 弔慰取扱細則、(3)役員について説明があった。各議案について、承認された。

以降の議事については、2022年度 教育後援会会長に選出された小村会長により進行された。

3. 2021年度事業報告および決算

事務局から、(1)2021年度事業報告、(2)2021年度決算、(3)2021年度寄付事業 実績報告について説明があった。役員からの意見・質問は以下の通り。

・総会決議アンケートの回答率が6.9%と低いが、回答率を上げるための対策はあるかとの質問があった。事務局から、2022年度入学生からはメールで案内を送ることに加え、2021年度にリニューアルをした教育後援会WEBサイトを更に活用することで改善をしたいとの説明があった。

・予算書・決算書に記載のある「前受会費収入」について、理解が難しいため、もう少しわかりやすい資料にしてほしいとの意見があった。事務局から、次年度の決算書・予算書は注釈として説明を加える等、工夫をすることの回答があった。

・寄付事業の成果を寄付事業報告に含めてほしいとの意見があった。また、寄付事業内容の選定方法、寄付事業に対する学生の評価や改善点を議論しているかとの質問があった。事務局から、寄付事業内容の選定については、年度の最後に行う第3回役員会で寄付事業を提案・審議を行い、翌年度の第1回役員会で再度審議を重ね、その時の状況に合わせた改善や提案を行っていることの説明があった。また、最終的には、総会で全会員に可否を諮っていることの説明があった。続けて小村会長から、2021年度からの事業、食環境の充実として、ハラール弁当・ヴィーガン弁当の販売については、2021年度から留学生の保護者も会費徴収の対象となり、留学生も年々増加していることから提案されたことの説明があった。

・大学の教育方針や新たに開設された明窓館のコンセプトについて質問があった。事務局から、本学ではVISION2024SEIKAを2018年に制定しこれに基づく中期計画を遂行中である。VISIONでは、「表現の大学」「リベラルアーツの大学」「グローバルな大学」を教育の軸としている。明窓館はこの3つの教育の軸を象徴する建物として開設したとの説明があり、多国籍のメニューを展開するグローバルカフェ、外国人のための学習支援室、大規模な展覧会ができるギャラリーTerra-sが含まれていることの説明があった。続けて、澤田学長から、明窓館は学生間の学部や国境を超えた交流ができること、また、外壁や教室をガラス張りにすることで、勉学の雰囲気共有される建物であることの説明があった。

以上の説明・審議を踏まえ、2021年度事業計画および決算について承認された。

4. 2022年度事業計画および予算

(1) 2022年度事業計画、(2) 2022年度予算(案)、(3) 2022年度寄付事業(案)について、事務局から説明があった。役員からの意見・質問は以下の通り。

・昨年度の寄付事業のうち、情報館の充実、課外活動の充実、卒業展示活動への賛助について、今年度の寄付事業として採択されない理由が質問された。事務局から、今年度の寄付事業については、昨年度、会員全体に対してアンケートをとり、会員の意見を反映していることの説明があった。昨年度から引き継がなかった寄付事業については、特に会員からの要望がなかったこと、新型コロナウイルスの対応などもあり、大学としても注力すべき事業であったところで昨年度の寄付にあり、施設や設備等が充実したものになったことから今回は寄付事業から除くこととなったと説明があった。

・新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの4回目接種について、職域接種を実施するかとの質問があった。事務局から、1回目、2回目のワクチン接種は、接種会場や病院が逼迫した状況であったため、学内で職域接種が実施されたこと、現在は各自治体でワクチン接種を受けられる状況にあるため、学内では実施しないことの説明があった。

・2022年度予算について、今年度は充足率が90%であるが、100%の充足率で予算がたてられているかとの質問があった。事務局から、会費収入については今年度の実態であり、前受会費収入については、100%の充足率で予算がたてられていることの説明があった。小村会長から、外国人留学生からも会費を徴収することとなったため、過去に比べて予算が組みやすくなったと補足があった。

以上の説明・審議を踏まえ、2022年度事業計画案および予算案について承認され、次回総会にて審議されることとなった。

小村会長から、全議事の終了が宣告された。